

リーディングDX指定の旭川緑が丘中

## ICTで働き方改革を

### 新保氏招き校内研修配信

【旭川発】文部科学省の新規事業「リーディングDXスクール事業」の指定校、旭川市立緑が丘中学校（貞弘真悟校長）は12日、

同校で校内研修を開いた。学校DX戦略アドバイザーで認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長の新保元康氏（写真）を講師に招き、市内4校にも

オンラインで配信。個別最適な学び、協働的な学びの創造に向けて知見を広げた。

当日は、緑が丘中に40人が参集。また、緑が丘小学校、緑新小学校、西御料地小学校、大有小学校からオンラインで10人が参加した。

新保氏は、令和の日本型学校教育の4つの柱の中で、特に重要なものとして「GIGAスクール構想の実現」「学校における働き方改革」を挙げた。

その上で「働き方改革を、ICTを使ってやるといことがポイント。授業改善のために残業をす

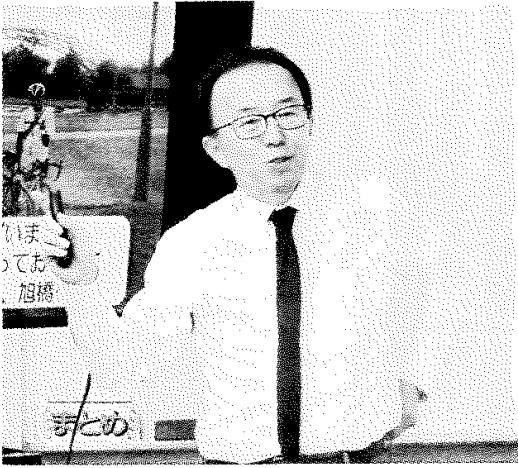
るのではなく、良い授業をして、早く帰れる学校にすること。それを考えるのがリーディングDXスクール」と伝えた。

事業の目的を「大課題は、地域間・学校間の格差。全ての学校でICTの普及

使用による教育活動の高度化を図ること」と述べた。

先進地の事例として、愛知県春日井市の学校での校内研修会を紹介。評価などを盛り込んだ授業の指導案を、Googleクラスルームで子どもと教諭が共有している状況から「先生だけの指導案は意味がない。こうすると実質的に効率的」と訴えた。

このあと、緑が丘中に集まった参加者は、教科での指導の工夫などについて協議した。



新保氏は、令和の日本型学校教育の4つの柱の中で、特に重要なものとして「GIGAスクール構想の実現」「学校における働き方改革」を挙げた。

その上で「働き方改革を、ICTを使ってやるといことがポイント。授業改善のために残業をす

るのではなく、良い授業をして、早く帰れる学校にすること。それを考えるのがリーディングDXスクール」と伝えた。

事業の目的を「大課題は、地域間・学校間の格差。全ての学校でICTの普及